

「仏教聖典」に於て、仏教用語として用いられた英語について

—その一部—

大 森 孝

On English used for the Buddhist words in "The Teaching of Buddha"

—A part of ones

T. Omori

「仏教聖典 (The Teaching of Buddha 1968)」(仏教伝道協会発行, 1968), の中に用いられた英訳の仏教用語の主なものについて, その一部を, 45号「棲神」に於て, 述べましたが, 其の続きを語義の上から, 仏教的解明は他にゆずり, 一般的意味に於てその由って来たる英語について, 文献を参照しながら少し述べて見たいと思います。

(a) desire (愛欲) について

American College Dictionary (以下, A. C. D. と省略) によると an expressed wish, Something desired, sensual appetite, 即ち「表現された願, 何か望まれるもの, 官能的欲望」と云う事になる。

Wedster's Essential English Dictionary (以下, W. E. E. D. と省略) によると, a strong wish, something desired とある。即ち, 「強い願, 望まれる何か。」と云う意味になる。

Ōbunsha's Senior English Dictionary (以下 O. S. E. D. と省略) によると, a wish, a strong wish, となる。

以上考えてみるに、表現された願、何か望まれるもの、と云う一般的意味より、A. C. D. にあるように、官能的意味に転じて、愛欲と云う表現になると思う。

(b) the Buddha of infinite light (無量光仏) について

infiniteについて考えて見ると、A. C. D. によると、indefinitely or exceedingly great, unbounded or unlimited, perfect, となる。

W. E. E. D. によると、seeming to be without limits, being without limits of any kind, となる。

O. S. E. D. によると、without limits, endless, extremely great, となる。

lightについて考えて見ると、

A. C. D. によると、that which makes things visible, state of being visible, revealed to public notice or knowledge, となる。

W. E. E. D. によると、the condition that enables one to see, the bright form of energy given off by something that enables one to see objects, となる。

O. S. E. D. によると、that which makes it possible to see, the state of being visible, となる。

以上、the Buddha of infinite light について考えて見ると、「限りなく、物事を明らかにする力を有するブツダ」と云う意味になると考える。

(c) the Buddha of boundless life (無量寿仏) について

boundless について考えて見ると、A. C. D. によると、without bounds, unlimited, 即ち、「限りがない、無限な」と云う意味になる。

W. E. E. D. によると, **having no limits, vast**, となる。

O. S. E. D. によると, **not limited, infinite, vast**, となる。

life について述べて見ると,

A. C. D. によると, **the condition which distinguishes animals and plants from inorganic object and dead organisms**, (無機物や死んだ有機体(物)から, 動物や植物を, 区別する状態) となる。又は, **the distinguishing phenomena of plants and animals**. (植物や, 動物の特色を示す状態) となる。

O. S. E. D. によると, **the quality that human being, animals, and plants have and rocks and metals have not**, (人類や, 動物植物が持って居り, 岩や金属類が, 持って居ない性質) となる。又, **the state of being alive**, (生きている状態) となる。

W. E. E. D. によると, **the quality by which animals and plants differ from such things as rocks, earth, and water**, (動物や植物が, 岩や土や, 水と異なる性質) となる。又は, **the sequence of physical and mental experiences that make up the existence of an individual**, (個人の存在を構成する身体的, 精神的経験の連続) となる。以上考えてみるに, 「無限な生命力を持つブツダ」と云う意味になる。

(d) the delusion of reasoning (見惑) について

delusionは, deludeの名詞故, delude について, 述べると, A. C. D. によると, **to mislead the mind or judgment of; deceive**, (心や判断を惑わす, 即ちだます) となる。

W. E. E. D. によると, 上記と同じ意味が述べてある。

O. S. E. D. によると, **deceive, mislead** となる。

reasoning は act or process of one who reasons故、先づ reason について、考えて見ると、

A. C. D. によると to think out logically (論理的に考える) となる。

W. E. E. D. によると、to talk with another so as to influence his action or opinions, to think logically となる。

O. S. E. D. によると think logically, draw conclusions from data (論理的に考える、データから結論を引き出す) となる。

以上、要約すると、「論理的に考える事にまどいを感じるもの」と、云う意味になる。

(e) the delusion of practice (修惑) について

delusion については、上述の通りである故、practice について考えてみると、

A. C. D. によると the action or process of performing or doing something, (何かを遂行する行為や、過程) となる。

W. E. E. D. によると、to do or observe often or usually, (しばしば、又は、平常ものをなしたり、観察したりする事) 又は、to do repeated exercises in so as to learn or improve, (学んだり、進歩するために、反復練習をする事) となる。

O. S. E. D. によると、the act of carrying out something, (何かを行なおうとする行為) となる。

以上より考えると、「事を実際に遂行するに当たっての迷い」と云う意味になる。

(f) the practice of charity (布施) について

practice については、上述の通り故、charity について考えてみると、A. C. D. によると、the private or public relief of unfortunate or needy persons, (不幸な貧しい人々への私的又は、公的の援助) something given to a person or persons, となる。

W. E. E. D. によると、love for one's fellowmen, (同胞に対する愛) the giving of aid to the poor and suffering, (貧しく、悩んで居る人々に対し、助けを与える事) public aid for the poor となる。

O. S. E. D. によると、kindness in judging people's faults, (人々の失敗(缺点)を判断する場合の親切心) the help given to the poor, となる。

以上より要約すると、「不幸な人々や、貧しい人々、悩んでいる人々に助けを与える行為」と言う意味になる。

(g) the practice of good behavior (持戒) について

practice については、上述の通りである。先づ

behavior について考えてみると、A. C. D. によると、manner of behaving or acting となる。behave についてみると、to conduct oneself or itself (人又は物自身が行為する) 又、to act properly (適当に振舞う) となる。

W. E. E. D. によると、behavior については、the way in which a person conducts himself, (人が身を勉める方法) 又は、the whole activity of something and especially a living being, (或るものの、殊に生物の全行動) となる。

O. S. E. D. によると、acts (行為) manners (態度、行儀) とな

る。以上要約すると、「人や生物が、善良に、適当に、身を処する方法」となる。

(h) ignorance (無明) について

形容詞 *ignorant* について考えると、A. C. D. によると、*lacking knowledge or information as to a particular subject or fact*, (特別の事物に関する知識や、見聞の欠いている) と云う意味になる。

W. E. E. D. によると、*having no knowledge or little knowledge*, (知識が殆んどない) となる。

O. S. E. D. によると、*knowing little, without knowledge* となる。以上要約すると、「事物に関する知識や、見聞の欠如」を意味する。

(i) offering (供養) について

A. C. D. によると、*something offered in worship or devotion, as to God, a deity, etc.* (神等への崇拜で供えられた物), *a contribution given to or through the church for a particular purpose as at a service*, (奉仕として、特別の目的で、教会に与えられた寄贈物) となる。

W. E. E. D. によると、*the act of one who offers*, (ささげる人の行為) *a sacrifice offered as part of worship*, (礼拝の一部としてささげられた、いけにえ) *a contribution to the support of a church*, (教会の援助の為の寄附) となる。

O. S. E. D. によると、*the act of making a proposal*, (申し出をする行為) *a gift to the church* (教会に対する供物) となる。

(j) rebirth (輪廻) について

A. C. D. によると, being born again, a second birth となる。

W. E. E. D. によると, a new or second birth となる。

O. S. E. D. によると, new birth, revival となる。以上考えるに, 「新生, 再生, 復活」と云う意味になる。

(k) chimeras (妄想) について

A. C. D. によると, a mythological fire-breathing monster, (神話又は, 想像上の火を吐く怪物) commonly represented with a lion's head, a goat's body, and a serpent's tail, (普通, ライオンの頭や, 山羊の体や, 蛇の尾で表現される。) a vain or idle fancy (無駄な, つまらぬ空想) となる。

O. S. E. D. によると, a fire-breathing monster, a terrible imaginary creature, (恐ろしい, 想像上の生物) a wild dream (荒々しい空想) となる。

以上より「妄想」と云う意味が生れて来る。

(l) repentant spirit (懺悔) について

先づ名詞の repentance について考えると,

A. C. D. によると regret for any past action (何か過去の行為に対する後悔) となる。

W. E. E. D. によると a feeling of regret for something done or said and especially for something wrong or evil (為された行為や, 言われた事, 殊にまちがった事や, 邪悪な事に対する後悔の感情) となる。

O. S. E. D. によると, the act of repenting (後悔する行為) となる。

以上より要約すると, 「過去の行為や, 邪悪な事, まちがった事等に対する後悔の念」と云う意味になる。

(m) the four-fold noble truth (四諦) について

先づ, noble について考えると, A. C. D. によると distinguished by birth, rank or title (生れや, 地位や, 称号により, 名の知れている) 又, of an exalted moral character or excellence (高い道徳的素質や優秀さのある) となる。

W. E. E. D. によると, of high birth or exalted rank, (生れの良い, 高い地位の) possessing superior qualities, (すぐれた資質をもっている) grand and impressive in appearance, (外見は立派で, 印象的である) となる。

O. S. E. D. によると, great and pure in mind or character, (心や性格が気高い) high in social rank or title by birth (生れながら高い社会的地位や, 称号をもつ) となる。

次に truth について考えてみると,

A. C. D. によると, that which is true (真実であるもの) the state or character of being true (真実である状態や, 性質) となる。

W. E. E. D. によると, the state of being true, the body of real events or facts, (実際の出来事, 又は, 事実の実体) a true or accepted statement or proposition (真実の又は認められた陳述, 或は命題) となる。

O. S. E. D. によると, the quality or state of being real or

according to fact (真実であり、又事実による素質や状態), an established fact or principle (つくられた事実や法則), that which is true となる。

以上、要約すると「四つの気高い真実なもの」となる。

(n) the eight-fold noble path (八正道) について

noble については、前述の通り故、path について考えると、A. C. D. によると、a way beaten or trodden by the feet of men or beasts, (人や動物の足によりふみつけられた小道) a route, course, or track in which something moves, (物が移動する行路) a course of action, conduct, or procedure (行動や、行為や、手順の路) となる。W. E. E. D. によると、a track made by foot travel, (足跡により造られる道) a course or way of life or thought, (生き方、又は、ものの考え方) となる、O. S. E. D. によると、a way made by the footsteps of men or animals, a line along which a person or thing moves, a course of conduct or action となる。

以上、要約すると「八つの気高い生き方や、考え方」となる。

(o) The four right procedures (四正勤) について

procedure について考えると、A. C. D. によると、the act or manner of proceeding in any action or process, (何らかの行動や手順を続ける行為や方法) a particular course or mode of action, (行動の特別の方針や様式) となる。W. E. E. D. によると、the manner or method in which a business or action is carried on, (ある仕事や行動が行なわれる方法や、手段) an action or series of actions (一つの行動、又は、一連の行動) となる。O. S. E. D. によると、the

act or manner of proceeding in a course of action, a particular course of action, となる。

以上、要約すると、「四つの正しい行動」となる。

(p) the four points to be considered (四念住)

consider について考えると, W. E. E. D. によると, to think over carefully, (注意深くえる) to regard highly (尊重する) となる。A. C. D. によると to contemplate mentally, (精神的に熟考する) to think, to regard with consideration or respect (思いやりや, 尊敬の念で考える) となる。O. S. E. D. によると, think about (something) in order to understand it, (物事を理解する為に考える) allow for something (物事を酌量する) となる。

以上、要約すると、「深く熟考し, 物事を理解すべき四つの要点」となる。

(q) self-pride (我) について

先づ, self について考えると, W. E. E. D. によると, oneself or itself, (~自身, 又は, そのもの自体), of or by oneself or itself, (~自身あるいは, そのもの自体で) となる。A. C. D. によると, a person or thing referred to with respect to individuality, one's nature, one's character. personal interest となる。

O. S. E. D. によると one's own character or personality (自身の性格や個性) となる。

pride について考えると, W. E. E. D. によると, too high an opinion of one's own ability or worth ; a feeling of being better

than others, (自分自身の能力, 又は価値についての高すぎる評価, 他人よりすぐれているという感情) a sense of pleasure that comes from some act or possession, (ある事の行為や, 所有から来る満足感) Something of which one is proud (人が自慢しているもの) となる。

A. C. D. によると the state or feeling of being proud, the best or most admired part of anything (何かの最も賞讃に値する部分) となる。O. S. E. D. によると, a high opinion of one's own ability or importance, (人が自身の能力や, 重要さについて, ほめすぎる事) a sense of one's own dignity or worth, (人・自身の威厳や, 価値についての意識) a feeling of pleasure or satisfaction in one's accomplishments or possessions, something that gives someone pleasure or satisfaction (人に愉みや, 満足を与えるもの) となる。

以上, 細かく述べてみましたが, 本文の場合, 良い意味に使われていないので, 要約すると「自分自身の能力, 又は価値についての, 高すぎる評価」と云う意味になると思う。

(r) endurance (忍辱) について

先づ動詞 endure について考えると, W. E. E. D. によると, to continue in existence, (存在し続ける) to bear patiently or firmly (忍耐強く, 又は断固として(苦しみなど)に耐える) となる。A. C. D. によると, to hold out against, to bear without resistance or with patience, (抵抗なしに, がまん強く, 耐える) to continue to exist, (存在しつづける) to suffer without yielding (屈つする事なしに忍ぶ) となる。

O. S. E. D. によると, suffer without expressing dislike, (きら

いの気持ちを出さずに耐える) to continue となる。結局 endure の名詞が endurance となる故、以上を要約すると「苦しみ等に屈する事なく、耐える事」と云う意味になる。

(s) virtuous deeds (功德) について

virtuous は virtue の形容詞故、先づ virtue について述べると、W. E. D. によると、moral excellence, (道徳的美点) an active beneficial power, (實際的な有益な効力) a desirable or praiseworthy quality (望ましい、又は、ほめるべき特質) となる。

A. C. D. によると、moral excellence or goodness, (道徳的美点、又は道徳的優良さ) a power or property of producing a particular effect, (特別の効果を生ずる力や物) となる。O. S. E. D. によると、moral excellence in general, (一般的に道徳的にすぐれている事) a good quality, (善い特質) power to do good (善い事をなすべき力) となる。

deed は行為的、以上要約すると「道徳的に、すぐれた、ほめるべき特質を有する行為」となる。

(t) four emotional state of mind (四無量心) について

emotional は、形容詞故、先づ emotion について述べると、W. E. D. によると、strong feeling, (強い感情) a mental and bodily reaction marked by strong feeling (強い感情により、示される心的又は肉体的反応) となる。

A. C. D. によると、any of the feelings of joy, sorrow, fear, hate, love, etc. となる。O. S. E. D. によると a strong feeling,

an excitement (強い感情, 興奮) となる。

以上, 要約すると「四つの強い感情により示される心の状態」と云う意味になる。

(u) real state of things (実相) について

real について, 述べると, W. E. E. D. によると, of relating to, or constituting fixed, permanent, or immovable things, (固定したものの, 永久的なものの, 或は動かないものの, それらに関する, 又は, それらでできている) not imaginary, (相像によるものでない) not artificial (人工的なものでない) となる。

A. C. D. によると, true, existing or occurring as fact, (事実として, 存在し, 生じている), genuine, (純粋いな) not artificial, or imitation, となる。

O. S. E. D. によると, existing in fact (実際に存在する) not man-made (人工的でない) となる。

state について述べると,

W. E. E. D. によると, manner or condition of being, (存在の様態, 或は, 状態) condition of mind or temperament (精神状態, 又は気質の状態) となる。

A. C. D. によると the condition of a person or thing, (人や物の状態) condition with respect to constitution, structure, form, phase, or the like (構成, 構造, 形, 局面に関する状況), a mode or form of existence (存在の方法や形式) となる。

O. S. E. D. によると the condition in which a person or thing is, a particular mental condition (特別な精神状態) となる。

次に things について述べると、

W. E. E. D. によると、state of affairs (事のありさま) となる。

A. C. D. によると、a matter or affair, a fact or circumstance, となる。O. S. E. D. によると、the state of affairs (情況) となる。

以上要約すると、(実際の、存在する事の様態) となる。

以上、仏教聖典 (The teaching of Buddha) の中の英訳の仏教用語の、一部について、語義の上から、述べた次第である。

Bibliography:

- The teaching of Buddha, 仏教伝道協会, Tokyo
American College Dictionary, Random House, New York.
Webster's Essential English Dictionary, Encyclopaedia Britannica
(Japan), inc.
Obunsha's Senior English Dictionary, The Obunsha, Tokyo.
新仏教辞典 誠信書房, Tokyo.
国語辞典 三省堂, Tokyo.
The new Crown Japanese English Dictionary 三省堂, Tokyo.